

科目名		理学療法技術論Ⅴ（難病、スポーツ障害）		授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間（1単位）	配当学年・時期	理学療法士科3年		必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕							
スポーツ傷害の理学療法は、幅広い理学療法の中のごく一部にしか過ぎない。従って、他の分野における理学療法の考え方をよく理解した上で、それらを応用出来るように知識や技術を高めるよう努力する必要がある。特に運動学や整形外科などの知識を再確認し、スポーツ傷害に対する理学療法に関してより一層の知識を深めていくことを目的とする。							
理学療法士がリハビリテーションを行う対象として、神経筋疾患の代表的なものの病態・リハビリテーションの実際について理解を深める。							
〔授業全体の内容の概要〕							
運動学や整形外科などの知識を確認しながら、代表的なスポーツ傷害を教授する。特にスポーツ傷害発生要因とその機序を教授する。そして、標準的なスポーツ傷害に対する評価とその応急処置からアスレチックリハビリテーションを示しながら教授する。神経筋疾患の病態・特徴について講義を行う。また、それらの特徴を理解した上で、リハビリテーションを行う上での目的、注意点についても教示し、理解を深める。							
〔講師の実務経験〕							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕							
<スポーツ>							
1.代表的なスポーツ傷害を理解できる。2.スポーツ傷害の発生要因について理解できる。3.代表的なスポーツ傷害のアスレチックリハビリテーションが理解できる。							
<難病>							
1. 神経筋疾患の病態・特徴を理解できる。2. 神経筋疾患に対するリハビリテーションの目的・注意点を理解できる。3. 神経筋疾患のリハビリテーションの実際を理解できる。							
回数	講義内容						
1	筋萎縮性側索硬化症について						
2	多発性硬化症について						
3	ギランバレー症候群について						
4	重症筋無力症について						
5	スポーツ傷害 概要						
6	肩関節のスポーツ傷害について						
7	評価・アプローチ						
8	肘関節のスポーツ傷害について						
9	評価・アプローチ						
10	股関節のスポーツ傷害について						
11	評価・アプローチ						
12	膝関節のスポーツ傷害について						
13	評価・アプローチ						
14	足関節のスポーツ傷害について						
15	評価・アプローチ						
	定期筆記試験						

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
テキストは使用せず、適宜資料を配布する		

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

定期試験によって判定する。